

いじめを速やかに解消した事例4(中学校第2学年女子、小学校第6学年女子)

～相談機関におけるメール相談の対応～

ケース1 からかいなどのいじめを相手とじっくり話をすることで解決した中学校第2学年の事例

問題の把握

相談者は中学校第2学年の女子生徒本人。相談者は今まで仲のよかった同学年の女子生徒から、からかわれたりするようになり悩んでいる。ある男子との交際が理由ではないかと考えており、今後、どうすればよいのかについての助言を求めるメールでの相談を受けた。

対応状況

相談機関の対応

本件について身近な大人に相談すること、いじめの問題解決に向けて相談者自身が取り組めることはないか考えてみることを提案する内容のメールを返信した。

相談者の変容

相談者は、自分でできることを考えた結果、からかう行為を行う生徒と直接話をし、自分の気持ちや考えを正直に伝えることにより、人間関係を回復させ、いじめは解消した。

ケース2 相手の分からないいじめに悩み、家族に相談することで解決した小学校第6学年の事例

問題の把握

相談者は小学校第6学年の女子児童本人。新しいクラスになってから相談者への悪口の書かれたメモが数回机の中に入っていたことがあり、悩んでいる。担任の先生に話してみたが「気にするな」と言われ、本気で対応してくれないと感じている。学級の中の誰かにいじめられているのではないかと心配になり、助言を求めるメールでの相談を受けた。

対応状況

相談機関の対応

学校が相談者のつらい気持ちを理解し、解決に向けて取り組んでもらえるように、再度担任か、難しいのであれば別の先生に相談してみることを、あるいは保護者から学校の先生に伝えてもらうなど、複数の相談相手を挙げ相談を促す内容のメールを返信した。

相談者の変容

相談者は、まず母親に相談し、その後、母親から担任に話をしてもらった。担任は、相談者の悩みに対応するため、面談と学級指導をくり返した結果、相談者からは、悪口などのいじめがなくなったことを報告するメールがあった。

いじめの問題を速やかに解消するためのポイント

- ・問題の解決に向けてできるだけ早期に行動することを促すこと。
- ・身近な大人や相談窓口に、いつでも相談できることを知らせること。
- ・相談を勧めた相手との相談結果が思わしくない場合は、相談の仕方や相手を変え、再度相談することを促すこと。

